

第 11 回女川原発 2 号機の安全性に関する検討会・・・傍聴報告

2017.3.24.に「第 11 回女川原発 2 号機の安全性に関する検討会」を、傍聴してきました。前回は、9 月 8 日で、たぶん今年度最後の会議です。但し、そのような事は、宣言されませんでした。傍聴者は、県議の中嶋簾さんを含め 10 名でした。

マスコミは、河北新報のみで、本日記事が載りました。

構成員は、10 名中重要な方、今村文彦、岩崎智彦、関根勉さんの 3 名が欠席で、おまけに本日の主要議題に関する地震工学の、源栄 正人さんは、途中退席でした。会議の中身が、最初から、半減です。

以下、報告します。(メモのみの報告なので違っていることもあるかもしれません。)

・議事内容は、添付の様に下記の通り(今回の資料は、そのうち、宮城県の HP にアップされます)

(1) 女川原子力発電所 2 号機の安全性に関する検討会における発言一覧の作成

(2) 各論点の説明・検討

「東日本大震災後の施設の健全性について」

・女川原子力発電所 2 号機地震後の施設健全性確認の状況

< (2) 確認手法及び (7) 点検・評価結果関連 >

「関連報告」

・新規制基準適合性審査の状況

・女川原子力発電所におけるヒューマンエラー低減に向けた対応

・源栄 正人さんが、途中退席との事で、(2) から議論を始めた。

●資料 3 と資料 3 (参考資料) を用いて、東北電力が説明、構成員が質問し、東北電力が答えるという形で進んだ。(東北電力の説明会になっている。)

・3.11,4.7 の地震で発生したヒビは、1130 か所で、3 階が多い。幅 1.0mm 以上のヒビはないので、構造上の問題はないとの説明。

(傍聴者には、配布されない資料や、写真での説明もあった。構成員からも回収するという秘密ぶりだ。建屋は、概ね弾性範囲であったとあるが、概ねでは、安心できない。)

・ヒビは、夏と冬の温度差で変化するが、どう検討しているか? →内部なので、季節の変動はない、との回答に、納得してしまった。(せっかく良い質問だったのに、追及が足りない。)

・壁の中のヒビは、どうやって見つけるのか。→応答解析で、わかる。(本当かな?)

・建物・構造物と機器・系統を、それぞれの健全性確認をしているが、連携震動で、機器が、建屋を壊すこともあるのでは? →今後検討と言ったような??

・港側の構築物について、地盤の問題は、考えなくて良いか？→女川は、硬岩なので、地盤の影響は考えなくてよい。(言い切ってしまったが、規制委員会でもまだ議論していないのに良いのだろうか？)

・今回のヒビは、予想の範囲のヒビか？→大きな揺れが来れば、ヒビができる。妥当だ、と言った？(自信ありすぎ？)

・高線量エリアの点検は、行わないとあるが、何かするのか？→他の部位から類推する。(本当に出来るのかな？)

●資料 1 で、今までの検討会における発言一覧の作成について報告あり。

・発言要旨のコメントについて東北電力からの回答を求める事が、座長から提案あり決定。(これでは、安全性検討会が、東北電力の説明会になってしまうので、大問題だ。)

●資料 4 で、適合性審査の状況が説明された。進捗状況が、○、△、×で示された。

●資料 5 で、「ヒューマンエラー」対応について議論した、
H27 年 9 月から起こった 6 個の事象を元にした、対応が示された。

以下の様な意見が出た。

- ・対策が増えると、煩わしくなり、かえって問題になる。
- ・うまくいったことの報告が、有効。
- ・管理職は、どんな人か。定義はあるのか？→経験豊富な者。ラインの管理者など。
- ・今回は、今までとどう違うのか？→失敗したらどうなるのかの、考え不足があったのでリスク想定をする等。
- ・社長に直接進言できるような、リスクマネージャーを、置いては、どうか。

(「ヒューマンエラー」対応策は、なかなか難しそうで、心配だ。)

以上です。

2017.3.25. 兵藤則雄